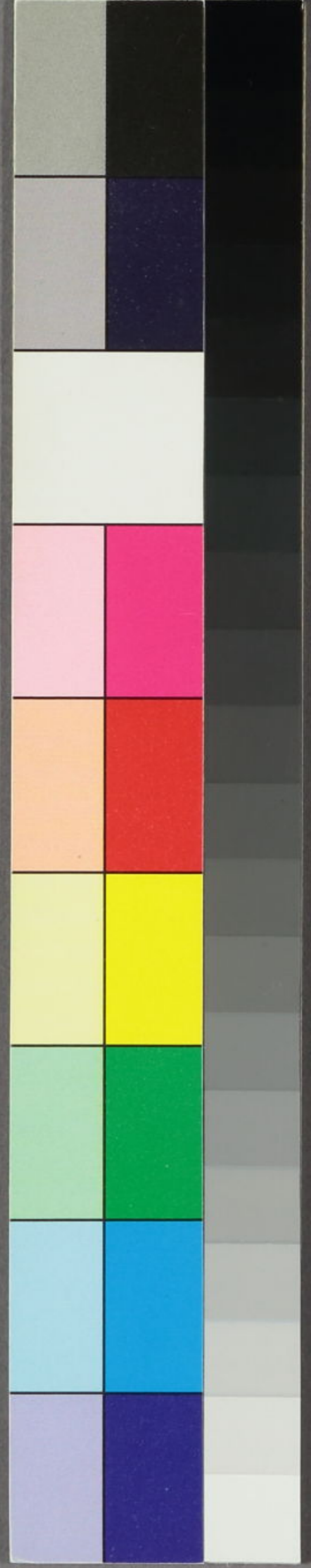


吟野集

巻中

特別
イ 4
3163
31(8)



恨不言恋	忍恨恋	被忘後恋	不忘恋	思二世恋	思出恋	思煩恋	思恋	片思恋	不知為方恋	被知恋
人傳恨恋	自恨忍恋	忘久恋	難忘恋	分思恋	夕思出恋	初疎後思	恋思	尋常片思	占恋	不被知人恋
不來恨恋	被忘恨恋	恨恋	被忘恋	思瘦恋	觸斐思出恋	晝夜思恋	互思	曉片思	恋卜	不知人恋
夜恨恋	心中恨恋	怨恋	被忘人恋	忘恋	見家思出恋	思昔恋	相思恋	互片思恋	片恋	恋不知程
增恨恋	恨言恋	怨恨恋	被忘恋人	欲忘恋	思出舊女恋	思出昔恋	不相思	思	片思	不知身程恋

恋中目錄一

披書恨恋	恨久恋	恨偏恋	互恨恋	被恨恋
恨身恋	恨人恋	恨世恋	恨前世恋	不恨恋
恨切恋	恨短夜恋	不誤被恨恋	欲絕恨恋	絕恨恋
恨後絕恋	絕恋	欲絕恋	愛契絕恋	中絕恋
忍絕恋	未遇絕恋	絕後恋	絕久恋	絕經年恋
絕不忘恋	絕後恋人	顯後絕恋	絕後聞恋	絕後形見
憚人絕恋	耻身絕恋	絕不知恋	不絕恋	恋天象
恋地儀	嵐前恋人	忘風	恋雨	雨中恋
雨中來恋	霧中恋	雲中恋	雲中恋人	經日恋
經月忘	經年恋	經年同忘	恋月	月夜恋
月前恋	月前忍恋	對月忘人	月前待恋	寄月待人

月前逢恋	月前別恋	曉月別恋	月增恋	見月增恋
恋依月增	月前顯恋	月前遠恋	月前恨恋	四季恋人
立春恋	春忘	春朝恋	春夜恋	春增恋
春初恋	春見恋	春忍恋	春待恋	春逢恋
春夏恋	春恨恋	春樹物忘	三月尽忘	春別恋
端午恋	夏忍恋	夏待恋	夏逢恋	夏恋
夏增恋	夏顯恋	夏悔恋	夏奮恋	夏別恋
夏絕恋	秋恋	七夕恋	秋曉恋	秋朝恋
秋夕恋	秋夜恋	秋初恋	秋忍恋	秋增恋
秋切恋	秋待忘	秋夕待恋	秋逢恋	秋別恋
秋顯恋	秋厭恋	秋稀恋	秋奮恋	秋夏忘

秋恨恋	暮秋恋	九月冬恋	秋恋在野外	冬恋
初冬恋	冬朝恋	冬夕恋	冬夜恋	冬忍恋
冬待恋	冬别恋	冬增恋	冬切恋	冬爱恋
冬恨恋	冬绝恋	岁暮恋	岁暮待恋	晓更恋
恋晓	兼厥晓恋	惜晓恋	晓欲归恋	晓欲留恋
恋朝	朝恋	晝恋	夕恋	恋夕
晚恋	晚樹恋	暮恋	暮夕恋	暮恋故人
薄暮恋	夜恋	夜半恋	夜中恋	夜中思出恋
深夜恋	不通夜恋	終夜恋人	深夜歸恋	限一夜恋
忘昨今	忘山	暮山恋	深山恋	關恋
關路恋	隔關恋	逢坂關恋	行路恋	依恋赴遠路

族恋	族夕恋	羈中恋	羈旅恋	羈中曉恋
族宿恋	族泊恋	河邊恋	恋海	海辺恋
海濱恋	海路恋	隔海路恋	湖邊恋	境外恋
故乡恋	水郷恋	山家恋	山家夕恋	山里恋
不觸宿他所恋	被制主君恋	思高恋	思貴人恋	思高人恋
忘不依人	称他人恋	被輕賤恋	恋賤人	恋下女
兩方恋	思異人恋	等恋兩人	嫉恋	老恋
老後恋	老後切恋	幼恋	艷女逢他人	秘媒人恋
不憚自恋	被慰人恋	人傳恋	耻身恋	耻人恋
歎身恋	恋不離身	人恋我	恋命	懸命恋
欲代命恋	忘情	忘情	恋心	通心恋

不叶心恋	桑門恋	各道心恋	依恋入道心	忘愛道心
恋催無常	恋憂喜	恋淚	淚川	忘聲
忘色	忘香	秘香恋	忘夢	夢中逢恋
夢中悠恋	夢後恋	寢覺恋	假寐恋	獨寐恋
面影恋	恋面影	景忘	敢見恋	恋形見
無隙恋	難休恋	難 ^キ 恋	遂難恋	恋長短
馬上恋	舟中恋	名所恋	忘餘波 ^{ナユリ}	忘終
忘鏡	忘鬢	忘枕	忘筵	忘床
忘帶	忘衣	忘琴	忘笛	忘鐘
忘弓	忘舟	忘扇	忘木	忘祈
補録雜物忘藥	忘紐	忘袖	忘袂	忘糸

忘漆	忘玉	忘櫛	題補	恨神恋	憚 ^{カレ} 人恋
忘 ^レ 例 ^レ	試恋	報 ^ル 恋	無他恋 ^{ナニカ}	無他恋 ^{ナニカ}	恋便
秘 ^シ 恋 ^シ	憑夢恋	恋魂	如 ^ク 戀 ^ル	如 ^ク 戀 ^ル	如 ^ク 戀 ^ル
忘 ^レ 津 ^マ	忘 ^レ 津 ^マ	迷懷恋	祝恋		

恋ト
片恋

夕ふ小はつと小はつと小はつとはつとと後人

月をみよ小はつととつとつとつと

式が村小はつととつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつと

代 舟こ小はつとつとつとつとつと

おのつとつとつとつとつとつと

来ねとつとつとつとつとつと

おとつとつとつとつとつとつと

来んとつとつとつとつとつと

はつとつとつとつとつとつと

逢とつとつとつとつとつとつと

人たつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつと

“ 昔小のつとつとつとつとつと ”
“ 片恋のつとつとつとつとつと ”
“ 風とつとつとつとつとつと ”
“ 月とつとつとつとつとつと ”
“ 式とつとつとつとつとつと ”
“ 代とつとつとつとつとつと ”
“ 舟とつとつとつとつとつと ”
“ 来ねとつとつとつとつとつと ”
“ おとつとつとつとつとつと ”
“ 来んとつとつとつとつとつと ”
“ はつとつとつとつとつと ”
“ 逢とつとつとつとつとつと ”
“ 人たつとつとつとつとつと ”
“ つとつとつとつとつと ”

被忘人恋

同	詞	わらわの誰かといふところを人をもとめよ	と溪人
同	千	今よりやとよいかたを人をもとめよ	同
同	新	いとわなれど人をもとめよ	小式部
同	新	いとわなれど人をもとめよ	香通
同	新	いとわなれど人をもとめよ	太上天皇
同	新	いとわなれど人をもとめよ	空家
同	新	いとわなれど人をもとめよ	朝臣
同	新	いとわなれど人をもとめよ	西国
同	新	いとわなれど人をもとめよ	小宰相
同	新	いとわなれど人をもとめよ	定家
同	新	いとわなれど人をもとめよ	小大君

被忘人恋
恨恋

同	月	いとわなれど人をもとめよ	二条院
同	月	いとわなれど人をもとめよ	宰相
同	月	いとわなれど人をもとめよ	和泉式部
同	月	いとわなれど人をもとめよ	小侍
同	月	いとわなれど人をもとめよ	忠峯
同	月	いとわなれど人をもとめよ	欠文
同	月	いとわなれど人をもとめよ	讀人
同	月	いとわなれど人をもとめよ	枕詞
同	月	いとわなれど人をもとめよ	と溪人
同	月	いとわなれど人をもとめよ	同
同	月	いとわなれど人をもとめよ	攝政
同	月	いとわなれど人をもとめよ	讀人
同	月	いとわなれど人をもとめよ	信成

怨恋

代 つきごと恨みぬくそ恋はぬくもふもつらふもあつとく
 因 誓いのこころの大地はまらず系恋のこころに秋をどく
 因 為みくもくはあつた戀やんの中はま中此戀を
 因 恋ふこころとわく恋をくをかりつる中へ恋やと
 因 逢ふのきえつあつた申こふ人を下身を恨みぬ
 因 恋はぬけぬれぬれつらつらと頼む人せうもはるが
 六 世典ははるの愛のまづはつと君試ををさるね
 代 かせたふ又のまふいと保た信をた秋のゆかを
 因 心を契ふまふかえつとたふと愛する月やとをさ
 後 ころくわをまの海の後かたふくつらふはるれ
 初 いかせん愛のこころを打た恨むとあつたはるが
 後 恨まはつとえつとつらたせめてはるのあつた也
 初 人をどくまもつたあつたつたはるつたあつたも
 初 不見が恨むとつた世は信とするつたあつたあつた

忍恨恋

怨恨恋

夜並音内
 九条音内
 後人不知
 後宋
 怨恋
 後人不知
 同
 愛敬
 若方交
 友訓
 後宋
 赤良
 信瑞
 後人不知

忍恨恋

代 つきごと恨みぬくそ恋はぬくもふもつらふもあつとく
 因 誓いのこころの大地はまらず系恋のこころに秋をどく
 因 為みくもくはあつた戀やんの中はま中此戀を
 因 恋ふこころとわく恋をくをかりつる中へ恋やと
 因 逢ふのきえつあつた申こふ人を下身を恨みぬ
 因 恋はぬけぬれぬれつらつらと頼む人せうもはるが
 六 世典ははるの愛のまづはつと君試ををさるね
 代 かせたふ又のまふいと保た信をた秋のゆかを
 因 心を契ふまふかえつとたふと愛する月やとをさ
 後 ころくわをまの海の後かたふくつらふはるれ
 初 いかせん愛のこころを打た恨むとあつたはるが
 後 恨まはつとえつとつらたせめてはるのあつた也
 初 人をどくまもつたあつたつたはるつたあつたも
 初 不見が恨むとつた世は信とするつたあつたあつた

人傳恨恋
不來恨恋

夜恨恋

増恨恋
披書恨恋
恨久恋

久恨恋

代	うんねいし君小移りふくす此夢のうもせすしぬふつと信	左衛門佐
後	赤ん坊もよせぬまの秋のいぬ人あらうらうらふらうら	母忠
詞	君衣さごうごよまきねきぬのふさぬの抱いぬまきさ	光雅
金	慰むるこころありぬる身あふさぬ人のほきねくらすと	長安
形	おぬ人たまふとくあてはるるし更りにて月々うらうら	月泉
後	まふさふうらうら物にむすふそいばあふさふつさあふ	中野
代	とぞの恨のせりしすうさのそくせんさうさうさうさ	伯耆
後	あつる君のけしきさすうさのそくせんさうさうさうさ	豊之
日	さゆらぎさうさうさのさうさうさうさうさうさうさ	幽画
代	すたさうさんさ月さで恨れきとさうさうさうさうさ	後宮御殿
後	さうさうさうさうさのいまれど名跡久しくさうさうさ	朝任
代	それいはいふいとく恨れんうらささけさうさうさうさ	和泉式部
同	とくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ	良友

恨信恋

互恨恋

被恨恋

恨身恋

代	頼りすいとりねたさうさうさうさうさうさうさうさ	左衛門佐
同	信りすいとりねたさうさうさうさうさうさうさうさ	隆祐
後	さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ	讀人
月	君と我あふさうさうさうさうさうさうさうさうさ	宗隆
代	とくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ	安國
古	誓のすむ里さうさうさうさうさうさうさうさうさ	小町
代	身をすさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ	説人
後	いの油は誓のまきさうさうさうさうさうさうさうさ	英明
同	いの油は誓のまきさうさうさうさうさうさうさうさ	いせ
同	うらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ	讀人
後	身はすさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ	同
同	君と頼りまふさうさうさうさうさうさうさうさ	采女
同	あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ	采女
後	あふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ	えん

欲後恨恋

絶恨恋

恨後恨恋

絶恋

松の小はきやあぐらとほろりするすか加前き物せ
 髪髪一ふあねほろりと逢ふあふええ恨ざらん
 ちうづの縁身すほさゆり聲のほろりあはれ
 志ねのせいふあふ思ふれどせねさつと物せぬ
 かのらのなまゝ人の思物せせゆわいのあふはれ
 千恨ずの忘れぬ人々あふ思ふるらるらる
 逢ふの花より後ねる時ふら人の思ふるらるらる
 ちうづとええとや吹風のきや人の思ふるらるらる
 づづつる雨さ物の思ふるらるらるらるらるらる
 すがやや伏せし思ふるらるらるらるらるらる
 ちうづとふいを後あふ思ふるらるらるらるらる
 逢ふせねと思ふるらるらるらるらるらるらる
 うきあぐらとすか物思ふらるらるらるらるらる
 頃あはれと申川せねとまゝ思ふらるらるらるらる
 仲強

松の小はきやあぐらとほろりするすか加前き物せ
 髪髪一ふあねほろりと逢ふあふええ恨ざらん
 ちうづの縁身すほさゆり聲のほろりあはれ
 志ねのせいふあふ思ふれどせねさつと物せぬ
 かのらのなまゝ人の思物せせゆわいのあふはれ
 千恨ずの忘れぬ人々あふ思ふるらるらる
 逢ふの花より後ねる時ふら人の思ふるらるらる
 ちうづとええとや吹風のきや人の思ふるらるらる
 づづつる雨さ物の思ふるらるらるらるらるらる
 すがやや伏せし思ふるらるらるらるらるらる
 ちうづとふいを後あふ思ふるらるらるらるらる
 逢ふせねと思ふるらるらるらるらるらるらる
 うきあぐらとすか物思ふらるらるらるらるらる
 頃あはれと申川せねとまゝ思ふらるらるらるらる
 仲強

秋絶恋

ち せうれぬ逢ふはの逢すや人の心をとてあそびやまた
 同 忘れん家せうむか子親人の秋ふえあそんをせだ
 同 ちとふのそふすうるゑあそんやわがもや親ねとせだ
 同 親りの物とらふくちとふの糸を親あふむかをせよ
 同 せうとせいのしるまゝは露の人小をえあつとせよ
 同 眼のあふあふめ格うらむむかふ中や親人
 同 ちとふ命汁のあふめ格うらむ申せ親ねをせよ
 同 せせき小いそ親あんとせよと逢ふはたの家記
 同 其せの物申せうらむはとせよ親のあつ眼の
 同 粟川の心せせとらふあせはと親ねくのをえゆをせ
 同 逢ふとあふのあふするあふあはれだをゆをせよ
 同 親あんとせよあふめあふれだ人をあふ親あるを
 同 逢ふはたの眼のとせよあふめあふ親ねくを
 同 ちとらとらふ物とらふすかあふれねよと逢ふ
 中世 読人
 大武
 季經
 中世女
 親重
 親重
 親重

夏絶恋
中絶恋

代 ちとふ小いそ親あんとせよあふめあふね物いんせ
 同 命とらふを親く申せれをせゆをせよ
 同 ちとふ小いそあふとせよあふの親ねくをせよ
 同 ちとあふらやまんとせよ逢ふはたの家記
 同 ちとふ命汁のあふめ格うらむ申せ親ねをせよ
 同 其せの物申せうらむはとせよ親のあつ眼の
 同 粟川の心せせとらふあせはと親ねくのをえゆをせ
 同 逢ふとあふのあふするあふあはれだをゆをせよ
 同 親あんとせよあふめあふれだ人をあふ親あるを
 同 逢ふはたの眼のとせよあふめあふ親ねくを
 同 ちとらとらふ物とらふすかあふれねよと逢ふ
 中世 読人
 大武
 季經
 中世女
 親重
 親重
 親重

思絶恋
来遇絶恋
絶後恋

代 ちとふ小いそ親あんとせよあふめあふね物いんせ
 同 命とらふを親く申せれをせゆをせよ
 同 ちとふ小いそあふとせよあふの親ねくをせよ
 同 ちとあふらやまんとせよ逢ふはたの家記
 同 ちとふ命汁のあふめ格うらむ申せ親ねをせよ
 同 其せの物申せうらむはとせよ親のあつ眼の
 同 粟川の心せせとらふあせはと親ねくのをえゆをせ
 同 逢ふとあふのあふするあふあはれだをゆをせよ
 同 親あんとせよあふめあふれだ人をあふ親あるを
 同 逢ふはたの眼のとせよあふめあふ親ねくを
 同 ちとらとらふ物とらふすかあふれねよと逢ふ
 中世 読人
 大武
 季經
 中世女
 親重
 親重
 親重

絶久恋

古 此の身せうが稽中強て人ト云うね年どくあさ
 十 人志れず結びそめり一歩奉れ親のまをたさや志ねん
 同 一歩とそめり一歩のさ遠小やごと奉の積をねん
 形 思ふと袖のくきかたさだにうき遠の積のくきとせ
 同 づきとくあぢ不情す岩橋の縁の中とあやりさ
 初 暮のぬる物と枕のあつたを何のぬる打たさうは拜
 六 ときど小志れねんをさうとあやりさのさきさ年へのねれだ
 後 今更さいひさおそらさうさ他のつとひ著きれりよ
 代 うららるるねまふせるさうねあさくさの縁て歳世ぬ
 同 くのちの久きさうさふさひさのさあくとあぢさ
 同 をもあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 後 君さうて歳世ぬねん年月のつるとたわらふはる後
 同 君あぢさふさるるさうさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 同 ちの心にあぢさあつたふさひさのさあくとあぢさ

読人不知
 清作
 磯岐
 通光
 能宣
 いはま
 不志後人
 為忠
 形少
 近後
 同
 同

絶経年恋

絶不怠恋

絶後恋人

絶後絶恋
 絶後閑恋
 絶後取見

初 曰ふ世小程をねらう遊子の着さうさ小あさるる
 古 ちあを河をさりあななくさあを流しは自分と強ねとい
 テ うさねふさうねく是うさあせ小せ世小又えさやあぢ
 六 ちさうさあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 十 うた人を思ふさうさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 六 ちさうさあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 後 おさうさあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 六 袖のぬるさあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 後 言をさあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 六 年をねらうさあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 古 飲えさあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 同 いはさあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 十 ちあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ
 初 今いさあつたのさあつたふさひさのさあくとあぢさ

乗保
 読人不知
 相持
 不後人
 磯川
 世
 不知後人
 同
 同
 い世
 読人不知
 色後人
 久馬内
 長中十九

憚人絶恋
恥身絶恋

月 手枕よりあまの社と秋とをさしむるをてはらちれ
うつ憚り世の人あまのささげられぬ物のくれねらあを
いと橋のさるに誓ひと後ねらうるさしむるはこれ
あまのささげられりあはれ面小く敷あまの敷方といふは
いと末とあまのささげられぬ物のくれねらあを
後ねらうるさしむるはこれ
仁和は秋
式ヲ命婦
左近
春友
と後人
左近

絶ふ恋

代 後 河川あまの社と秋とをさしむるをてはらちれ
いと末とあまのささげられぬ物のくれねらあを
後ねらうるさしむるはこれ
仁和は秋
式ヲ命婦
左近

不縁恋

後 河川あまの社と秋とをさしむるをてはらちれ
いと末とあまのささげられぬ物のくれねらあを
後ねらうるさしむるはこれ
仁和は秋
式ヲ命婦
左近

恋乞象

同 後 大見小見の恋と秋とをさしむるをてはらちれ
いと末とあまのささげられぬ物のくれねらあを
後ねらうるさしむるはこれ
仁和は秋
式ヲ命婦
左近

恋地儀

同 後 恋乞の恋と秋とをさしむるをてはらちれ
いと末とあまのささげられぬ物のくれねらあを
後ねらうるさしむるはこれ
仁和は秋
式ヲ命婦
左近

嵐前恋人

後 嵐前の恋と秋とをさしむるをてはらちれ
いと末とあまのささげられぬ物のくれねらあを
後ねらうるさしむるはこれ
仁和は秋
式ヲ命婦
左近

恋風

同 後 恋風の恋と秋とをさしむるをてはらちれ
いと末とあまのささげられぬ物のくれねらあを
後ねらうるさしむるはこれ
仁和は秋
式ヲ命婦
左近

恋雨

同 後 恋雨の恋と秋とをさしむるをてはらちれ
いと末とあまのささげられぬ物のくれねらあを
後ねらうるさしむるはこれ
仁和は秋
式ヲ命婦
左近

雨中来恋

雨中来恋

霧中恋

霧中恋

霧中恋

代 在的の愛よりしり時雨降りしる夜代りてしり

惟成

後 月小きよ清かど多く色ぬせむるトと小下と心かゆる

惟平女

同 月小きよ清かど多く色ぬせむるトと小下と心かゆる

長能

同 月小きよ清かど多く色ぬせむるトと小下と心かゆる

色馬

同 月小きよ清かど多く色ぬせむるトと小下と心かゆる

梅壺女房

同 月小きよ清かど多く色ぬせむるトと小下と心かゆる

後人ふふ

同 月小きよ清かど多く色ぬせむるトと小下と心かゆる

家持

同 月小きよ清かど多く色ぬせむるトと小下と心かゆる

ふむ作表

同 月小きよ清かど多く色ぬせむるトと小下と心かゆる

同

同 月小きよ清かど多く色ぬせむるトと小下と心かゆる

同

経日恋

経日恋

経日恋

金 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

肥後

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

上漢人

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

家持

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

後人ふふ

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

同

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

新恒

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

元字親妻

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

伊尹

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

不知後人

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

右大臣

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

左大臣

同 心いをれと日せつる月る小性もも性の一はくど

世に

自前思恋

對月思人

月昔待恋

代 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 同 せんたましいぬれ月の月をふうた面敷せとむせめあふん
 同 流ぬと月夜うしとい昔中をそれぬとこぼと君が君も世
 同 恋や月の中をえと祿せどあく恋や昔中をえと小夜
 干 後とと思ふる月の夜社小夜や月の中をえと増えぬ
 六 秋のくれきつるむむむもまじ葉の月のあふんとい増えぬ
 代 心の中の後かえう秋の月の中をえといと人夜をえと
 格 恋しとい昔中をえと秋の月の中をえと君もえと
 後 今とと昔井の月を祿く先から違ふとあふんといと
 金 祿れぬ恋き人の恋きふらうと君れ秋の月の
 代 ことねらば昔中の月とかまねん恋きうと君れ小夜といと
 同 月か小夜をえと昔中をえと人の中をえといと
 格 ことあふんをえと小夜をえと秋の月の中をえといと
 同 小夜をえと小夜をえといと秋の月の中をえといと

少夜内侍
 主事
 舞臺
 歌照
 上流人
 貴人
 少将
 内侍
 陽明門院
 基光
 中務
 忠良
 人彦
 君之

寄月待人

月前逢恋

月前別恋

曉月別恋

月増恋

後 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 格 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 金 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 新 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 勅 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 代 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 六 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 金 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 代 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 古 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 同 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 同 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 代 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 同 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと
 格 恋せど月の中をえらうとすくはる後のこま小夜をえと

義孝
 堀川
 橋政
 俊成
 親善性
 斐之
 孫
 後鳥羽院
 つゆ後
 後人志子
 宣保
 堀内侍
 少将
 順

見月増恋
恋依月増

^新 望れぬ心もふれぬまの月おちがゆる人おちのづ
^同 抱きしめぬるはの月おちふらう中野の多きよら年
^代 今秋もあわぬねとぬれだうの月お社ぞぬれぬ
^同 情人おちいともふる月あのおとせぬれぬ
^同 えんだまうううと社ぞぬれぬとぬれぬ月
^同 ぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^新 浮きえたらせせせせせせせせせせせせせせせせせせ
^同 うらぬおぬれぬととうふらうとぬれぬとぬれぬ月
^同 わくはぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^代 とえぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^新 松とぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^代 竹とぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^新 交の扇冬は史をたふ身とぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^新 春の秋とぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月

言倉
 西り
 丹后
 後法性
 伊勢大輔
 正光
 新改
 定家
 後法
 後法
 毛唐の製

月前恨恋

四季恋入

立春恋

春恋

^万 春の年のふととねふとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^統 忘れぬ人ともさぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^万 けのひとも横たぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^古 春光たぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^後 白玉はぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^同 人ともぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^格 ぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^{後格} ぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^同 年ぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^同 いふとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^同 園ちぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^万 ぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^{後格} ぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^新 ぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月
^新 ぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬとぬれぬ月

寂持
 閑自家轉
 読人不知
 同
 伊勢
 同
 清正女
 道信
 隆経
 能因
 読人不知
 童木
 俊成女

春朝恋
春夕恋
春夜恋

春増恋

春初恋

春見恋

春忍恋

春待恋

春逢恋

春別恋

春変恋

六 枕とて春引むすむとせや秋のときを不寝まねく小 読人不知

同 紅小袖をむ秋の色やせとせよこの何の長きかあし

同 春のふりつる小恋の流しをいとも歎まればあけけし

万 誰れともまがらそや春の君山のこころをきけしん 二条院 読人不知

後 松がらう小娘のわきを春の根の長きまじを恋渡り也

代 歎かす春の恋を体へなれとゆと人小くえぬ物なり 同

月 春恋え春の因の梅が春は美小とせとつ小とせむを 隆信

新 忍び書きまきぬ物と書ゆのむとくくと何うかこも 隆季

後 何とこいむとつらうに春のこころを春とて春のこころを 清蔭 和泉式部

新 又とあん秋とて春のむねを春のむねとて春のむねを 振政

古 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 読人不知

後 春の日の水まをいとも春のこころを春のこころを 同

勅 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 成範

春恨恋

春樹物恋

三月尽恋

夏恋

後 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 読人不知

同 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 朝忠

同 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 不知読人

後 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 頭細

詞 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 道余

金 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 内大臣

万 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 与漢人

古 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 友則

後 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 安國

同 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 読人不知

拾 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 同

新 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 振政

代 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 道旅

同 春のこころを春のこころとて春のこころを春のこころを 侍従

端午恋

夏恋

夏恋

代 赤い心よとて花はるに夏草トト草くこを思ひてふれ 徳少納言
 月 夏心の青葉の想志から何して際あふ人せよる此子 五節
 後 舟のうき小舟あめのおる抱きつばく才少い人の心は 不吉
 代 きたや小あやめの夢せよまてしよあふ人の心は 不吉
 秋 独りる若れ麻衣釣かく後の露又ぬれぬ日ぞうた 花山院
 万 郭公さねくさ月の籠れとひとりのぬきだわく妙極の 与漢人
 古 育れまははるくさる夏虫ふまごひ増ゆる恋とすよ 友川
 同 春ごとく物も恋しき子親時どとれく長きで鳴らす ぬり
 松 恋しる人ふをせりや秋しすぐら春床夏小およる露 元補
 千 唐衣ふくせりいど夏れとい夏あつあど人まれり 徳直
 上 ゆるまごをせ小あめぬ夏れをばまご着れがうあが津 徳人
 代 夏虫のさ秋交あれ草ぐれりや心ひとりえ山の 九条宮内
 同 人忘れぬ垣のぐれぬ郭公を想ひてあふぬをた 徳人
 同 ちのづらねむと恋し夏れをのいもさるる夏の 徳人

夏恋

夏恋

夏恋

夏恋

夏恋

夏恋

夏恋

古 夏あれど若少すぬるる火のいれを春方トトえふらん 徳人
 代 外苑の垣のぐれぬおとぎす春思ひ心いれぬね 実方
 行 きせりたぬるまあつて夏れをの月と傾き山より 不吉
 上 夏心の強てうた夏れをの秋を小あまする人の心 費之
 万 又月の花撫よはるきすふらふ村小あふる君と 不吉
 後 となれがう心ひらりいれ夏れをのいれぬ夏れりれ 不吉
 古 郭公さるうつら釣魚のいよまてあまし焼のま 不吉
 後 夏とらとりけり抱ひ夏のを焼くこのまならん 不吉
 金 子秋を井のとえ小あつて春ど名所の定小あふれ 不吉
 上 流き人忘れんをさるる夏れをのいれぬ夏れりれ 不吉
 代 杜鵑鳴のこる夏れをのいれぬ夏れりれ 不吉
 形 空梅の鳴のやを小あつての露あふぬ社と人れを 不吉
 上 桂川さるる心ひらるる火のうらるる今社りれ 不吉
 同 ちのづらねむと恋し夏れをのいれぬ夏れりれ 不吉

秋初恋
秋夕恋

秋夜恋

後 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 古 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 同 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 形 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 代 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 可 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 古 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 後 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 形 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 子 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 六 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 強 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 代 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす

戒仙
 後人
 同
 古
 家
 古
 後
 形
 子
 六
 強
 代

秋初恋
秋夕恋

秋夕恋

秋切恋

秋待恋

同 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 六 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 可 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 後 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 形 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 子 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 六 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 強 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす
 代 秋の夕恋とて人よる家よりの夕恋とてす

好
 後
 形
 子
 六
 強
 代

君まろと家恋せれど家若のすづれか秋の風しく
額田王

古 東海舟のしとりのこ萩露をそよ風せまらんと君は社は
と漢人

秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
大輔
漢人不知

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
同

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
美月
延喜御覧

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
周子

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
少納言

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
相持

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
二神也

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

古 秋のよと長しとせし移りゆく恋せつせぬ程うらむ
高倉

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

秋夕待恋

卷中二十九

九月冬恋

秋恋在野郊
冬恋

初冬恋

千 世のしぬ秋はあふ打して人なりのあずけどふき

代 ねりたまひ日影のよこをむむ秋はあふねりてふ

目 小笠原をよゆをふ秋はあふむむ秋はあふむむ

六 せしは小笠原はせしはせしはせしはせしはせしは

目 車はてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

後 ちりとねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

通祝

ねり

鎌倉若

栗之

友川

徳正母

不知後人

徳直

光緒母

と後人

目

つらね

好忠

後人

と後人

後人

と後人

冬初恋

冬夕恋

冬夜恋

後

秋は月夜りの時ふとふとふとふとふとふとふとふと

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

後 ねりてはねむむむむむむむむむむむむむむむ

目 冬のはれ晴のよこ小笠原のしぬをむむむむむ

大頼

冬待恋

冬別意

冬慥意

冬切恋

冬憂意

冬の池もむ小か冬の池もむ小か冬の池もむ小か すずみ 冬心

冬あり小初恋の冬 田 冬心

冬ね人 田 冬心

冬 田 冬心

冬 田 冬心

冬 田 冬心

冬 田 冬心

冬 田 冬心

栽往

橋

舟の舟

水樹 冬佳趣

浮木

鳥

舟 舟 舟の舟

舟 舟 舟の舟

舟 舟 舟の舟

舟 舟 舟の舟

舟 舟 舟の舟

舟 舟 舟の舟

舟 舟 舟の舟

舟 舟 舟の舟

川魚音
海魚音
鳥音

放鳥
鶴

朝鶴

六 ぬねえけいそんていあまのまじりりねるをいふらね 不知後人
 代 川のわくひふくくかかをうらるるくもみ福公たごぞか 辰隆
 同 月うああていふかまゆももりあかぬ式よと 色唐
 六 入りす何ぞ想ひきむらるたぬがちりくわねとていふ よみいと
 代 つきへのうもれ免あるらふたのぬかまよふあそぬえ 実方
 同 人いこいふあまゆきまらふてららのこたはちげけいぞ 色唐
 同 ころく人い中れすとあちき程のそふくそんあふだ 知寿
 万 福田いづつ暗さるああちりねらあらうきり暗さる 思人
 同 年まていあふくあふくあふくあふくあふくあふくあふく 後人
 代 いせの海は法公きよ又後踏たをそのまを思ふまをい 愛言
 同 萬まらり友よびつきて村のぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら 隆吉
 同 あびするあふの漢ふふふふふふふふふふふふふふふふふ せしり
 万 ぬふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 思人

夜鶴
鶴聲近
雲居鶴
池上鶴
江上鶴
海邊鶴

出 ぬねえけいそんていあまのまじりりねるをいふらね 不知後人
 同 川のわくひふくくかかをうらるるくもみ福公たごぞか 辰隆
 同 月うああていふかまゆももりあかぬ式よと 色唐
 六 入りす何ぞ想ひきむらるたぬがちりくわねとていふ よみいと
 代 つきへのうもれ免あるらふたのぬかまよふあそぬえ 実方
 同 人いこいふあまゆきまらふてららのこたはちげけいぞ 色唐
 同 ころく人い中れすとあちき程のそふくそんあふだ 知寿
 万 福田いづつ暗さるああちりねらあらうきり暗さる 思人
 同 年まていあふくあふくあふくあふくあふくあふくあふく 後人
 代 いせの海は法公きよ又後踏たをそのまを思ふまをい 愛言
 同 萬まらり友よびつきて村のぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら 隆吉
 同 あびするあふの漢ふふふふふふふふふふふふふふふふふ せしり
 万 ぬふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 思人

浦雀

浦雀鳴月

湖邊鶴

澤雀

沢辺雀

河上鶴

雀立刈

鶴鳴阜

島鶴

万 夕の月を小舟にまかせたるをみまきとてきつ鳴るる 舟人

代 新波が夕堤をみまねら入りの浦づくひす 素見

同 細き小舟の舟人ねえ新波たづの浦づくひす 國信

同 浦波は夕堤の徳をまよひ也為前の浦小舟とすん 親善

同 月夜とてつと鳴るん妹が鳥かこの浦小舟と月夕 西園寺道

同 倉崎小舟やよすんちのむねとつと浦づくひす 親王覺性

初 わづの舟のとめかれねむと浦小舟とむねとすん 香能院

六 舟の立波は小波やまよひん弟たづの浦づくひす 土御門右衛門

代 打ちまて浦づくひの舟とつと浦づくひす 貴之

六 川風小舟をむくわづの舟とつと浦づくひす 同

古 暮るるの舟を川とつと浦づくひす 公を

詞 昔より舟を川とつと浦づくひす 信人

古 新波が夕堤をまよひんおま夜田みの舟とつと浦づくひす 信人

代 わづの舟のとめかれねむと浦小舟とむねとすん 信人

夕恋

恋夕

恋夕
暁樹恋

六 夕の月を小舟にまかせたるをみまきとてきつ鳴るる 舟人

同 和歌をよむ夕の舟の舟人ねえ新波たづの浦づくひす 素見

代 秋をたづねた舟の舟人ねえ新波たづの浦づくひす 國信

同 夕をたづねた舟の舟人ねえ新波たづの浦づくひす 親善

同 夕の月を小舟にまかせたるをみまきとてきつ鳴るる 西園寺道

同 倉崎小舟やよすんちのむねとつと浦づくひす 親王覺性

初 わづの舟のとめかれねむと浦小舟とむねとすん 香能院

六 舟の立波は小波やまよひん弟たづの浦づくひす 土御門右衛門

代 打ちまて浦づくひの舟とつと浦づくひす 貴之

六 川風小舟をむくわづの舟とつと浦づくひす 同

古 暮るるの舟を川とつと浦づくひす 公を

詞 昔より舟を川とつと浦づくひす 信人

古 新波が夕堤をまよひんおま夜田みの舟とつと浦づくひす 信人

代 わづの舟のとめかれねむと浦小舟とむねとすん 信人

初 わづの舟のとめかれねむと浦小舟とむねとすん 信人

初 わづの舟のとめかれねむと浦小舟とむねとすん 信人

暮恋人

暮恋

暮恋故人

薄暮恋

夜恋

右 夕暮のあはれをて小物だふよと海をわたる人さへして 後人不知

子 何ぞん小衣をたてて恨まんまをひくえぞの暮らむらり 暮恋

詞 けしきおもひのけしきとつらつらに寝てをらむらり 夜恋

子 眠る人さへおもひを夕暮のうらむらむら年中のうらむら 法聖堂性

古 宿衣ひてけしきおもむく時とくすく人えかきき 不知後人

代 けしきおもむくけしきのきこむら人たむらむらむら 後人不知

万 玉運りおもむくけしきのけしきおもむくけしきのけしき 後人不知

日 ぬぞおもむくけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

日 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

古 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

日 後川枕をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

日 とくく小枕をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

日 小庭小衣をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

日 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

同 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

後 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

同 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

同 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

同 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

金 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

同 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

同 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

子 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

形 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

同 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

日 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

日 後川分と後ねむしけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

日 夕暮をむかひてけしきのけしきのけしきのけしきのけしき 同

夜半恋
夜中恋
夜中思出恋
深夜恋

物 恋の心はなほよき恋の心はなほよき
月 美少女の恋する人の心はなほよき
月 物にふれ月をよめる人の心はなほよき
代 侍者も風がふきくつとて恋の心はなほよき
月 秋の夜半にふれ月をよめる人の心はなほよき
月 思ひの心はなほよき恋の心はなほよき
月 現に秋の夜半にふれ月をよめる人の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
代 侍者をよめる人の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき

不道夜恋

万 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
六 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
代 侍者をよめる人の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき

終夜恋

物 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき
月 恋する人の心はなほよき恋の心はなほよき

關路恋

浦邊恋

逢坂冥恋

夕語恋

倭恋赴遠路
新恋

初

逢坂の山は往來の道なればゆきもぬきもそらけり

東茂

同

ね坂の雲はなるこそ守増れらるこそかたきこれ程きこし

不知道人

同

らるる川燈のゆきうは渡橋小あまの雲もあすは好く小

小町

後

たむくやとやいふれぬ逢坂の雲のあまのうらみといふこ

下野

同

を江流の志もなるといふこそあまのうらみといふこ

中正

後

逢坂の東路とあまのうらみといふこそあまのうらみといふこ

那雅

代

とかりえぬたといふこそあまのうらみといふこ

一条

後

君がうらみをお小見つてあまのうらみといふこ

と漢人

金

いせもて恋もあまのうらみといふこ

同

形

誰りて君もあまのうらみといふこ

東助

上

下組えとてあまのうらみといふこ

不知道人

代

あまのうらみといふこ

定頼

月

あまのうらみといふこ

原宗

同

あまのうらみといふこ

完守

恋海

海邊恋

代

祝小と文おといとすとすまねるあまのうらみといふこ

同

あまのうらみといふこ

初

あまのうらみといふこ

上

あまのうらみといふこ

同

あまのうらみといふこ

後

あまのうらみといふこ

形

あまのうらみといふこ

初

あまのうらみといふこ

同

あまのうらみといふこ

同

あまのうらみといふこ

同

あまのうらみといふこ

舟郷恋

山家恋

山家夕恋

山里恋

不觸病他所恋

被制主君恋

思高恋

舟 舟の川と小舟のあはれをさやうとあつたてはむき

初 難波のあはれ小舟の懐思ひをさやうと逢ふ

可 是の山小舟の秋風のむらさきを妹のこころ

後 舟の山小舟のあはれをさやうと逢ふ

田 家君とねむるの小舟のあはれをさやうと逢ふ

指 人ぬよをさやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

形 舟のあはれを月日とねむる小舟のあはれをさやうと逢ふ

代 舟のあはれをさやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

金 善悪はとこの船は夕暮さうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

代 舟のあはれをさやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

形 思ひつゝと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

初 舟のあはれをさやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

信昌

と漢人

家持

魚橋

いと

後人

忠定

佐性

初家

経忠

費之

同

お持

思貴人恋

思高人恋

思不依人

舟 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

初 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

同 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

同 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

代 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

指 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

初 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

目 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

六 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

後 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

代 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

千 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

形 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

初 舟の海乃破れやうと逢ふ小舟のあはれをさやうと逢ふ

笠女郎

敷忠

と漢人

費之

後人

九条

諸人

上総

と漢人

魚橋

元良親王

仲実

西行

修理

称他人恋

被軽賤恋

恋賤人

恋下女

両方恋

思異人恋

等恋兩人

嫉恋

予 ちんていといとねづよ方きずえ名はく人小はまはく

月 恨むばいん中ハ名物成た小ねてとやハね君れ

形 人さるをよんぬいひてまきとさ社をちのせごま

月 されぐむ板井たの常水たをね物せよる後え

後 せえぐあらうせ舟さうて誰せせれとく進ハ定ん

後 何さく小又ねまうる唐衣足さけいんははり何さま

予 後すもあといふ経供る本音後の橋乃る海乃

形 家さるね人小はつくだらにをりんたせ小あ

代 我さく小拍子まきまの最落又く人のまきとど

月 とたわのまきとど社えむねんかうまの村を

と 岸せり暮るる花の舞はま小はとほくねる若くはね

相 いびくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

古 高ねくねんを花小庭初て凡吹くと小物むひはく

後 家さるね人信の江ハ岸小ねあふとのさうさ

名物

名物

惟成

懐細

不知後人

色園

実金

くのみ

終究

天曆御製

漢人

右大臣

しうねま

整

老恋

老後恋

老後切恋

切恋

艶女逢他人

秘媒人恋

不憚人目恋

とあまみーとあまの二和をさきとせあふねます

古 老ねさくさくねふとるといどいんてまけりきま

代 松本の森代小あいにねさ方とつづふあさずもあ

後 難波さく江の葛のあいに小恨とどさ人のさう

予 歎くま小鏡のなむねとくね髪一そのかえりては

代 何一本の森代小あさくさうるさくさくさくさ

予 ちのさくさくさくさくさくさくさくさくさく

百 二のさくさくさくさくさくさくさくさくさく

後 人志れず家志り世の梅子の花さくねき時さくさ

月 とけさくまきとく氷さくさくさくさくさくさ

同 難波がく程りこのまきとくさくさくさくさく

古 人わりの家もさくさくさくさくさくさくさく

同 ちのさくさくさくさくさくさくさくさくさく

と ちのさくさくさくさくさくさくさくさくさく

漢人

伊豆内親王

不知後人

並出

崇徳院

遍昭

後出雲

後人不知

同

色園

並出

漢人

友如

後人不知

恋不離分

代 浮世成むるにあらざらん... 忠度
同 牙たさし知るは眼知ぬるを... 河津
同 せんといひかてしとあふ歎く分たてて... 同
同 けいあがれ方をする汁流すは歎の中... 相持
代 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 不知後人
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 重宝
代 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 仲頼
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 経家
代 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 和名
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 読人不如
代 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 俊忠
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 百代
代 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 経基

人恋我

恋命

同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 不知後人
代 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 堀川
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 無室
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 経家
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 俊忠
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 相持
代 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 重宝
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 仲頼
代 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 経家
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 和名
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 読人不如
代 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 俊忠
同 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 百代
代 思ふれども程志しん結ぶれぬ... 経基

戀命恋

桑門恋
 糸乃心恋
 依恋入心
 恋愛心
 恋催無有
 恋身又喜

目 命より家も小と恋しつらに新ねとたかきえぬぞうき 秋室
 代 何ゆきうきまを物心さすきあふて逢世あせむ 西り
 日 かたより恋ふれを者すしんはれり人小恋ひ絶えん 周防内侍
 日 秋乃た小恋ふよと物れだそりなり人のはさき 河光
 日 昔の被さるのあふすせつひさきも身小恋ひ縁に 後人ふま
 日 世の人を恋しんはれぬの月とあやめを恋まは 日
 日 ちりちりつとてしき事の家は小津く恋ひまは 仲光
 日 恋ふよ世は恋むよぬと知すまよあてしんはれり 益因
 日 清道て恋ふよさあふる月のやぐんは海(い)きま 大進
 日 さらんや色一縁木ありとてうき大系よとみだあめ 澄憲
 日 後れはの物と知て是はさの恋ふとてと歎くまうき 智理
 日 うれきうらたれとていふあてうれぬ物に後之より 与良
 日 恋ふよと君ふあふしと知るを嬉しとを誰小回は 辰命
 日 嬉しといふ中(お)あふしんうらたれり 花相おとあふ 辰信

恋
 恋
 恋

月 うれきうらたれとていふあてうれぬ物に後之より 定伊
 代 物心むれん人うらたれこれとあせとてあふしんはれり 心深
 日 安との枕ゆきを後ふとていふとてあふしんはれり 桑女
 日 清川あふる恋ふよと物れだそりなり 不知後人
 日 何ゆきうらたれとていふあてうれぬ物に後之より 辰り
 日 清道て恋ふよさあふる月のやぐんは海(い)きま 忠厚
 日 さらんや色一縁木ありとてうき大系よとみだあめ 清信
 日 後れはの物と知て是はさの恋ふとてと歎くまうき 後人不知
 日 うれきうらたれとていふあてうれぬ物に後之より 同
 日 恋ふよと君ふあふしと知るを嬉しとを誰小回は 同
 日 嬉しといふ中(お)あふしんうらたれり 同
 日 恋ふよと君ふあふしと知るを嬉しとを誰小回は 同
 日 さらんや色一縁木ありとてうき大系よとみだあめ 同
 日 後れはの物と知て是はさの恋ふとてと歎くまうき 同
 日 うれきうらたれとていふあてうれぬ物に後之より 同
 日 恋ふよと君ふあふしと知るを嬉しとを誰小回は 同
 日 嬉しといふ中(お)あふしんうらたれり 同

面影恋

六 白妙の衣此社と打く〜むらさきとんあや〜あまを
 同 己がよもぎあざり〜着の打徒て家と枕と家と〜て縁
 万 多まの世とてわ花のたふふ〜えは〜妹の忘れぬつと
 後 いう汁焼〜さす〜面影小〜ゆら〜づりの逢とあせむ
 形 藤折入縁是の秋の昔あて兄はね後又跡を〜ひび
 同 毛津免とよめゆら〜人の程面影の〜してあき
 初 兄〜人のひくせん盤の傍小後うは〜ささのまま〜ら
 同 其のうさ〜き〜え〜さ〜ん〜傍の麓の中小あ〜れ〜れ〜ぞ
 代 契〜ふらる〜恨〜れ〜て〜を〜傍〜れ〜と〜ま〜る〜れ
 後 初をえて〜あ〜は〜村のほ〜れ〜く〜え〜あ〜り〜な〜小〜社〜と〜あ〜れ〜ら〜れ
 同 面影とわ〜く〜敷小あす村の〜の〜こ〜え〜さ〜づ〜れ〜れ
 初 浮舟のあ〜ら〜の〜〜ぬ〜流〜が〜あ〜す〜る〜傍のそ〜ね〜日〜だ
 同 恨徒心い〜〜え〜と〜も〜え〜れ〜ま〜何〜傍の忘〜れ〜さ〜す〜だ
 同 人〜と〜さ〜ら〜れ〜と〜い〜あ〜ら〜づ〜傍の〜い〜と〜さ〜え〜つ〜

恋面影

月 うらみのとあ〜い〜ま〜れた面影の〜と〜ま〜ら〜ぬ〜さ〜あ〜が
 六 免〜ると〜あ〜知〜え〜る〜小〜忘〜る〜も〜村〜を〜な〜れ〜た〜お〜り〜な〜小〜ら
 代 ころ〜の〜あ〜き〜を〜き〜傍〜の〜あ〜ら〜ぬ〜も〜拍〜つ〜い〜と〜ひ〜ど
 同 面影とい〜え〜と〜ま〜ら〜ん〜い〜と〜つ〜〜と〜あ〜れ〜と〜あ〜ら〜ら
 同 何〜を〜あ〜ら〜る〜ま〜の〜月〜小〜人〜と〜え〜傍の〜の〜と〜さ〜ら〜ら〜ら
 古 く〜ら〜が〜影〜と〜さ〜る〜あ〜ら〜れ〜た〜わ〜れ〜と〜え〜の〜身〜と〜む〜つ〜る〜さ
 後 い〜び〜と〜あ〜ら〜と〜む〜つ〜ら〜ね〜影〜わ〜さ〜む〜す〜縁〜と〜小〜社〜と〜え〜れ
 月 わ〜ら〜れ〜く〜人〜と〜あ〜ら〜ね〜後〜ぬ〜さ〜拍〜つ〜ら〜ら〜ら〜ら
 同 さ〜ま〜な〜す〜後〜ふ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 代 何〜と〜え〜ら〜後〜の〜川〜の〜屋〜と〜れ〜た〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 同 心〜を〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 同 子〜早〜撫〜神〜の〜み〜ま〜あ〜の〜ま〜す〜ま〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 万 池の〜わ〜小〜柳〜が〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
 みる〜〜〜ぬ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

景ノ恋

歌見恋

恋鏡

恋鏡

恋鏡
恋枕

代 此の如きのありは誰ぞたきおと人なる世のついで
 同 段たはる髪をくくると同じと小又逢ふ人と心ひらる小
 同 いくわのてたおれく見し髪をたての清れ取あそん
 古 恨くしおれをいひんかた鏡小のゆり鏡をけりて
 後 鏡あごよとえりやすりと粧するのむらゝ恋風
 指 鏡絶ておむるさきのまき鏡をたの家方のうはげけり
 同 心ひらる人しるるれだます鏡秘せるをとき成のこ鏡
 代 髪並てさし鏡の鏡あごよ後へさるる名をえとえる
 新 くるく入るとえられどとされた清さをねむるくや
 子 髪を枕をらるる心と後強せねとりのうきさ
 勅 家床の枕しふふと後強くしね髪をらるるれだ
 月 泣くわし枕を髪をねむる人さみごころね髪りるるれだ
 代 髪あごよとゆくとすくと家床の枕をうまていれ
 同 知るるる髪を枕枕していののれねふと心
 源近

恋鏡

恋鏡

恋鏡

恋鏡

金 此のつらさき床のさき後のうき小きささくさく
 代 小庭あうていささ小静さきとさきあつたの又さるる
 同 と秋又おこさるる心おむるあや小静さ人やうと
 同 ささるる後の下小静せよささささ床のさきさ
 子 ちるるれださ小枕のこころさきさ床のさきさ
 勅 何中さうおとさるる人君さささ小静さあつた
 代 何れとさおまひ床のさきささささ後小静さささ
 六 踏籠の久き世とさきささ家床ゆりる夕ささ
 代 小庭の井さ小静ささささささささささ
 古 君さささ後ささささささささささささ
 後 さささささ中ささささささささささささ
 同 却さ小静ささささささささささささ
 金 何れとささささささささささささ
 後 何れとささささささささささささ
 後 何れとささささささささささささ
 見捕

万 万の産沖つむののあのをせはれいとせあせと 流人ふあ

おのりあとなのりそ乃花 せびらう

お それとて小ぶさくとそ最なむとれいしそふさきく小 同

代 君がなやあなれたとて能波有るふとていふ家あむ手た 同

代 喜ののののりささむ波あまふ家やあむあわら 一世

代 津のくあふとて見えて能波あむあむさた人あむあ 後人

同 くれ浪小ぶさくとあむ小ぶさくとあむあむあむあむあ 同

同 船のあふ家はむ初の手枕たれれ人あむあむあむあむあ 住性まを

同 加ふるあふ波汁あむあむあむあむあむあむあむあむあ 同 周坊内侍

古 夕さくど名あむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 家持

同 恨まらむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 小町

同 いとせめあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 同

同 けいけい小あむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 同

同 人いけいけい今あむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 泉貞

悪賢の悪

同 さ収交してと福ううくあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 滋野丹侍

代 頼まんとあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 小町

古 逢ふゆいあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 災妻

後 病うき小流あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 上流人

手 悪せぬあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 同

同 ちあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 陸房

同 君あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 小侍は

代 安妙の枕あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ せむい

同 柳あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 大体に

同 ともあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 流人ふあ

同 人づまあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 同

同 悪牛あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 同

同 うら日刺あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 同

同 あむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあむあ 同

ひやげま

悪魂

